

尾岱沼における標識オオハクチョウの 確認報告について

更科智司・岡本俊一
今野重郎・玉田 誠

山階鳥研から確認の為に送られてきた1985年期のブループリントの標識鳥の一覧表で濤沸湖のチェックを了り、尾岱沼の分のチェックをしてその報告件数の余りにも少ないのに驚いた。更によく見るとリストアップされている8羽の内の5羽もが私達の報告した個体と一致して、いささか異様に思えた。どうも気になるので、私達の観察結果の報告を始めた1981年期（1981年～1982年）以後のものについて、公式の報告書である「鳥類観測ステーション報告」によって尾岱沼での確認記録の一覧表を作り、それに私達の調査結果を重ねてみた。（別表）

1986年期のものはまだブループリント版もできていない（未受領）ので何とも言えないが、各年期共私達の報告した個体数が非常に高い比率となっていることを見出したが、他方その調査月日の異状さにも驚いたのである。即ち

1981年期は2月14日と2月21日～2月24日の間のみで就中2月14日と2月24日に調査月日が集中している。

1982年期は2月10日、11日、12日と26日、あと空きがありのち3月6日、27日とかなりバラツキがあるが2月11日に調査月日が集中しているのが目立つ。

1983年期は2月14日、25日、3月6日と12日と26日であるが2月14日と3月6日に集中している。

1984年期は瑞木博氏の報告を除けば残りの総ては私達の調査月日と一致しており3月24日に集中している。

1985年期は2月17日と3月21日の2日間のみ集中し、大塚恭司氏の報告を除けば残りのほとんどは私達の調査月日と重なり且つ集中している。

以上のことについて考えられることは、多くの人の何の連絡もとらない調査月日があった1日か2日にかくも集中するものであろうかということである。尾岱沼には極めて多くの人が見物や調査？に出掛ける筈だから、かなりの重複報告があっても不思議ではないがはたしてこれ程迄に調査日が重なるものであろうか。表の枠囲いしたデータの総てが私達の報告のみであると主張する意志は毛頭なくかつその根拠も薄弱である。このことについては、私達が鳥研に出掛けて資料を見せていただいて確認するか、鳥研で洗い出してもらえないか、その日に限っての「集中的な報告か」・「特定人の単独的報告か」が帰結するところは、前者の場合は対策の立てようも無いが後者かそれに類するものであれば、尾岱沼＝春別川河口に於ける確認体勢については鳥研に於ても日本白鳥の会の側に於ても何らかの方策を講じなければならないだろう。白鳥が庭先まできて遊び、“戸を開けておけば家の中まで這入ってくる”という付近の或る家の主人が言った。「あんなものをつけて本当に可愛想だ」と、そして又「ろくに調べ

もしないのに」とも。このヒトの「調べる」という内容がどういうカテゴリーには入るものなのか、又その「調べる」対象がわれわれウワッチャーを指すのか、将又鳥研を指すのか不明である。しかし「ろくに調べもしない」という内容が、拾いあげられた（再来鳥の）確認数の少なさを、調査された月日の余りの少なさに気付いていないとは言い切れないし、尾岱沼に於いて標識された鳥の他地域での確認報告の少なさを指しているのかも知れない。（後者の場合なら納得のいく説明が出来るのだが。）

日本白鳥の会の定時定点調査の集計データにも尾岱沼の調査記録は全く収載されていない。尾岱沼での調査の困難さは日本でも一・二といってよい所である。しかし全域の調査が困難なら、せめて春別川河口付近、或はそこでの標識鳥だけでも見てやってもらえないかと思う。日本の越冬地や集結地には必ずといってよい程何人かの懸命に世話をしているヒトがいるので、私は敢えてそこに踏み込んでの調査結果を世に問う意志はもたない。私達の道東地域の調査はあく迄もスタデーベースの濤沸湖との関連性の追求が柱である。しかし尾岱沼の調査結果（数・月日）の異様さを見ては、その原因が判明する迄はその調査日の増加は考えても減ずることはできないと思っている。

1980年2月24日、札幌でのIWRBのシンポジウムに参加した世界中の白鳥の専門家達はオオハクチョウの日本に於ける最大の越冬地、尾岱沼春別川河口にその足跡を印し、尾岱沼とそこでの越冬状況は現実的に世界共通のものとなった。そしてこの日を含めたのち3日間に2C23から2C45まで23羽の標識鳥が誕生したのだが、1985年1月1～5日の2C44と同年3月24日の2C35の2羽の確認を最後に総ての鳥のリサイテングデータがリスト上から消えた。（1985・1986年期の報告未確認の為に少々早計であるが）。しかし、私達が濤沸湖で発見しているようにガイド140のメタルリングのみになった標識鳥を尾岱沼春別川河口でも発見できる可能性はないだろうか。すでに見た1985年3月24日の2C35の発見場所の近くで、われわれは1羽のメタルリングのみになっている標識鳥を発見しているのである。（別表MR only鳥）。「ろくに見もしないで」の中には、そうした鳥のいることを知っていることを含んでのつぶやきではなかったのかとも思う。そして更に思ったことは、一研究機関（といってもそれは環境庁の依託）の行なっていることとはいえ「可愛想」だけでは済むものではなく、現実にそうした鳥の存在が明白であり、その苦難に満ちた幾歳月を生き抜いてきたことを考えると「そうした鳥の確認も亦ゆるがせにはできない」と。

付記 別表にはバンダーによるバンデング記録（年月日）は収載していない。

参照文献 山階鳥類研究所 鳥類観測ステーション報告 昭和55, 56, 57, 58, 59, 60各年度版
同 昭和61年度
（1985～1986）観察記録のまとめ（確認用ブループリント版）日本白鳥の会 定時定点観察速報 1984～1987

（文責者 玉田）

尾岱沼に於ける標識オオハクチョウの確認記録

Code	Banding Date Sex Age L	1981	1982	1983	1984	1985	1986
1 C 0 9	23 Mar. '75 Uk. Ad. K	<u>14 Feb. '82</u> 21-24 Feb. '82					
1 C 6 5	16 Mar. '78 Uk. Juv. O	21-24 Feb. '82					
1 C 8 5	16 Mar. '78 Mn. Ad. O	21-24 Feb. '82	10 Feb. '83				
1 C 9 1	17 Feb. '79 Fe. Ad. K		<u>11 Feb. '83</u> 26 Feb. '83	<u>14 Feb. '84</u>	30 Dec. '84 15 Jan. '85 ●		
2 C 2 7	9 Mar. '77 Fe. Ad. O		6 Mar. '83				
2 C 3 5	26 Feb. '80 Mn. Ad. O	21-24 Feb. '82	<u>11 Feb. '83</u>		<u>24 Mar. '85</u>		
2 C 4 4	26 Feb. '80 Fe. Ad. O				1-5 Jan. '85 ●		
2 C 3 9	26 Feb. '80 Fe. Ad. O	<u>14 Feb. '82</u>	<u>11 Feb. '83</u> 6 Mar. '83	<u>14 Feb. '84</u>			
2 C 6 3	8 Mar. '81 Uk. Juv.	<u>14 Feb. '82</u>					
2 C 6 4	8 Mar. '81 Uk. Juv. O	<u>14 Feb. '82</u> 21-24 Feb. '82	<u>11 Feb. '83</u> 6, 27 Mar. '83	<u>14 Feb. '84</u> 6 Mar. '84	30 Dec. '84 15 Jan. '84 ●		
2 C 6 5	8 Mar. '81 Uk. Juv. O	<u>14 Feb. '82</u>					
2 C 7 1	9 Mar. '81 Fe. Juv. O	21-24 Feb. '82					
2 C 7 2	9 Mar. '81 Fe. Juv. O	<u>14 Feb. '82</u> 21-24 Feb. '82	<u>11 Feb. '83</u> 12 Feb. '83				
2 C 7 3	9 Mar. '81 Mn. 2Y O	<u>14 Feb. '82</u> 24 Feb. '82					
2 C 7 5	9 Mar. '81 Mn. Ad. O	<u>14 Feb. '82</u> 21-24 Feb. '82					
2 C 9 1	23 Jan. '82 Fe. Juv. K		<u>11 Feb. '83</u> 12 Feb. '83				
2 C 9 5	23 Jan. '82 Mn. Ad. K		27 Mar. '83				
3 C 0 3	24 Feb. '82 Fe. Ad. O		<u>11 Feb. '83</u> 12 Feb. '83				
3 C 1 5	22 Jan. '83 Uk. Juv. K					17 Feb. '86	
3 C 4 8	13 Feb. '84 Fe. Juv. O			<u>6 Mar. '84</u>			
3 C 4 9	13 Feb. '84 Fe. Ad. O			<u>6 Mar. '84</u>			
3 C 5 0	13 Feb. '84 Fe. 2Y. O			<u>14 Feb. '84</u> 12 Mar. '84			
3 C 5 1	13 Feb. '84 Fe. Ad. O			<u>6 Mar. '84</u>			
3 C 5 2	13 Feb. '84 Fe. 2Y. O			<u>6 Mar. '84</u>			
3 C 5 3	13 Feb. '84 Fe. Ad. O			<u>6 Mar. '84</u>			
3 C 5 4	13 Feb. '84 Mn. Ad. O			<u>14 Feb. '84</u> 25 Feb. '84			

続 <

続 き

Code	Banding Date Sex Age L	1981	1982	1983	1984	1985	1986
3 C 5 5	13 Feb. '84 Fe. Ad. O			6 Mar. '84	1-16 Feb.'85 ●	17 Feb. '86	
3 C 5 6	13 Feb. '84 Uk. Ad. O			6 Mar. '84			
3 C 5 7	13 Feb. '84 Ma. Ad. O			6 Mar. '84			
3 C 5 8	13 Feb. '84 Ma. Ad. O			14 Feb. '84 6 Mar. '84			
3 C 5 9	13 Feb. '84 Ma. Ad. O			14 Feb. '84			
3 C 6 0	14 Feb. '84 Fe. Ad. O			14 Feb. '84			
3 C 6 1	14 Feb. '84 Fe. Ad. O			14 Feb. '84 6 Mar. '84 26 Mar. '84			
3 C 6 2	14 Feb. '84 Fe. Ad. O			14 Feb. '84 6 Mar. '84			
3 C 6 7	14 Feb. '84 Ma. Ad. O			6 Mar. '84	30 Dec. '84 15 Jan. '84 ● 24 Mar. '84	17 Feb. '86	
3 C 6 8	14 Feb. '84 Ma. Ad. O			6 Mar. '84			
3 C 6 9	14 Feb. '84 Ma. Ad. O			6 Mar. '84			
MR only	right tarsus				24 Mar. '84		
3 C 7 3	16 Feb. '86 Fe. Ad. O					17 Feb. '86 *21 Mar. '86 ○	20 Feb. '87
3 C 7 4	16 Feb. '86 Fe. Ad. O						20 Feb. '87
3 C 7 6	16 Feb. '86 Uk. Juv. O					17 Feb. '86	
3 C 7 7	16 Feb. '86 Fe. Ad. O					21 Mar. '86	
3 C 7 8	16 Feb. '86 Ma. Ad. O					17 Feb. '86 *21 Mar. '86 ○	
3 C 7 9	16 Feb. '86 Fe. Ad. O					*21 Mar. '86 ○	20 Feb. '87
3 C 8 3							20 Feb. '87
3 C 8 4							20 Feb. '87
3 C 8 5							20 Feb. '87
3 C 8 6							20 Feb. '87
Total	84	12(9)	10(7)	21(19)	7(3)	8(5)	Uk(7)

Banding の欄の L は標識地で、O は尾岱沼 = 春別川河口、K は小湊である。Ma は雄、Fe は雌、Ad は成鳥、Juv は幼鳥、Uk は不明を表わす。確認年月日の内 * を付したものは山階鳥研への報告漏れの追加、● 付のものは瑞木博氏、○ 付は大塚恭司氏、罍のものは私達の報告と一致しているものを示す。又 Total(計) の () 内の数は私達の調査数の計で内数である。